平成二十九年　六月四日・五日　厳修

大梅拈華山　圓通　正法寺　開山忌

五十三世　石屋道龍大和尚　五十回忌

五十九世　義雲正孝大和尚　晋山式

御挨拶

平成二十六年六月十四日、自らの非才を顧みず、
正法寺五十九世を拝命してより三年。
末山法類の方々、檀信徒・有縁の方々の深いご理解と絶大なるご支援により、
本日ここに晋山式禮を修行出来ます事、誠に有り難く心から深く
御禮申し上げる次第でございます。入寺してより、僧堂の開単無くして
晋山は無しと心に定め、元本山の名に相応しい修行道場の復活の為に
皆様と手を携えてまいりました。
末山法類の方々の御尽力は筆舌に尽くし難く、その浄行は永く記憶に止め、
その御恩に報いんとするものでございます。
本日の晋山式には大本山總持寺 江川辰三紫雲臺猊下、
石附周行副貫首老大宗師のご臨席を賜り、乙川暎元監院老大宗師には西堂
白槌を忝う致しました。
さらには諸山の尊宿、道友の方々の御随喜、御法助、檀信徒の皆様のご協力を
忘れることなく、更には歴代祖師方に恥じない精進辦道を誓い
御禮の御挨拶とさせて頂きます。

大梅拈華山 圓通 正法寺 山主 盛田 正孝

御開山 無底良韶禅師

無底良韶禅師は、大本山總持寺二世峨山禅師の弟子二十五哲の筆頭であり、三十一歳で新寺造営の発願をして東北に赴き、当地の豪族黒石氏と長部氏の帰依を受け、貞和四年（三四八）に大梅拈華山圓通正法寺を開山され、奥羽二州・曹洞第三の本寺の格式の基礎を築かれ、康安元年（三六一）六月十四日に遷化されました。以来、禅師を偲び、毎年、開山忌を修行しております。

五十三世 石屋道龍（細川）大和尚

五十三世様は、大本山總持寺後堂（修行僧指導養成の最高責任者）を経て、昭和二十八年から同四十三年九月八日に八十一歳で遷化するまで正法寺に住持し、その間、總持寺の監院（寺院護持運営の総責任者）や伝光会講師などを勤められ、當山の坐禅堂新築に尽力し、大勢の僧侶を育成されました。本年は五十回忌に当たります。

五十九世 義雲正孝（盛田）大和尚 略歴

誕生 昭和十九年 生

昭和二十九年 三月二十日 茨城県正麟寺住職盛田孝岳老師にて得度

昭和四十一年 夏 東京都文京区 吉祥寺 岩本勝俊老師（大本山總持寺 独住第十九世禅師）の結制再会にて立身

昭和四十一年 九月二十九日 茨城県正麟寺住職盛田有孝老師より伝法

昭和四十三年 三月三十一日 駒澤大学大学院 修士課程 修了

昭和五十一年 冬 栃木県野木町 満福寺にて結制

昭和五十七年～平成六年十月 特派布教師

平成六年 十一月～同十一年十一月 関東管区教化センター主監

平成十八年 十二月十六日～同二十四年二月八日 大本山總持寺 後堂

平成十九年 十月十九日 曹洞宗師家（僧侶養成指導者）分上

平成十九・二十年度 布教師養成所 主任講師

平成二十二年 大教師補任

平成二十三年～同二十七年 師家養成所 主任講師

平成二十四年 六月一日 特命布教師補任

平成二十六年 六月十四日 大梅拈華山圓通正法寺に入寺

六月四日(日)午後二時

五十三世 石屋道龍大和尚 五十回忌 逮夜法要

焼香師　平泉町 東松寺 東堂 千田實道 老師

殿鐘三会　ご寺院さま入場

七下鐘　導師さまを合掌でお迎えします

鼓一通　お供えの儀式開始の太鼓

上香普同三拝　導師さまが香を捧げた後、全員で合掌三礼します

献蜜湯三拝　甘い蜜湯を供え導師さまが三拝

中揖三拝　お供え物の加減をお伺いする導師さまの三拝

法鼓三打　お供えの儀式修了の太鼓

拈香法語　導師さまが香を捧げ、五十三世さまを偲ぶ言葉を述べます

読　経　寿量品偈・行道二匝 ご寺院様方の読経行道

焼香　読経中焼香　五十三世さま関係者進前焼香

回向　維那和尚が法要の意義をお唱えします。全員合掌します

普同三拝　法要修了の三拝。導師さまと共に全員で合掌三礼します

退堂　導師さまを合掌でお送りします

午後三時

開山忌 逮夜法要

焼香師　末寺護持会副会長 花巻市 瑞興寺 住職 須田庸夫 老師

殿鐘三会　ご寺院さま入場

七下鐘　導師さまを合掌でお迎えします

鼓一通　お供えの儀式開始の太鼓

上香普同三拝　導師さまが香を捧げた後、全員で合掌三礼します

献蜜湯三拝　甘い蜜湯を供え導師さまが三拝

中揖三拝　お供え物の加減をお伺いする導師さまの三拝

法鼓三打　お供えの儀式修了の太鼓

拈香法語　導師さまが香を捧げ、御開山無底禅師さまを偲ぶ言葉を述べます

読経　神力品・行道二匝　ご寺院様方の読経行道

焼香　読経中焼香　室中・尊宿進前焼香

回向　維那和尚が法要の意義をお唱えします。全員合掌します

普同三拝　法要修了の三拝。導師さまと共に全員で合掌三礼します

散堂　導師さまを合掌でお送りします

午後六時

晋山式祝斎(於・プラザイン水沢)

六月五日(月)午前四時半

起床・坐禅・朝の勤行
五十三世　献粥法要
開山忌　献粥法要
小食飯台(朝食)

午前八時～八時二十分

尊宿到着・五盤三拜　来賓のご寺院さま方が到着し、本堂で三拜
全員合掌でお出迎えします

午前八時三十分

五十九世　義雲正孝大和尚　晋山式(新山主の就任式)

安下処出発　門前の聖諦庵を出発
山門法語　山門に到着し法語を唱えます
大雷上殿　太鼓の轟く中本堂に入ります
山門疏　正法寺関係者を代表して、新山主歓迎のお唱え
※末寺護持会長 一関市 龍澤寺 住職 塩竈博隆 老師
門葉疏　正法寺末寺関係者を代表して、新山主歓迎のお唱え
※末寺護持会副会長 唐桑町 洪龍寺 住職 永井功雲 老師
道旧疏　新山主関係者を代表して、就任祝いのお唱え
※北海道 定光寺専門僧堂後堂 慈光寺 住職 神田則重 老師
仏殿法語　ご本尊さまへの法語・焼香・三拜
土地堂法語　仏法を守護する大権修理菩薩さまへの法語・焼香
祖堂法語　禅宗の開祖 達磨大師さまへの法語・焼香・三拜
開山堂法語　ご開山さまと歴代ご住職さまへの法語・焼香・三拜
退堂　両班の先導で新山主の退堂
引き続き

五十九世　義雲正孝大和尚　晋山開堂

西堂・白槌師　大本山總持寺 監院 乙川暎元 老師

晋山に因み、須弥壇上にて広く隆昌安泰を願い、信仰を深め、修養のために大説法を行います
巡版 大衆上殿　全員本堂集合の合図のため、山内の木版を巡に打ちます
上殿鼓 空座門訊　両班は須弥壇を拝んで、山主を迎えに行きます
大雷上殿　太鼓の轟く中、山主が両班の先導で入場
下語・登座　簡単な法語を唱えた後、須弥壇に登る
拈香　天下泰平を祈り、一佛両祖とご開山さまや歴代住職へ感謝し、檀信徒のご先祖供養と各々の繁栄、更にご自身の師僧様へ捧げる法語と焼香
問訊　五人の山主のお供の僧と両班が交代で山主さまへ挨拶
代衆請法　お供が代表して問答依頼の焼香をして全員が合掌低頭
白槌　上堂の修行順熟を証明する西堂老師が槌砧を一下して問答開始を宣言
垂語　山主は質問を促すために心境を吐露
問答　問答についての所感を述べる
提綱　問答についての結果を謙遜して述べる
自叙　謝辞
謝語　先徳のすぐれた心境を引用して説法の終了を告げる
拈則・結座　西堂老師が修行順熟を証明の宣言
白槌
祝辞　**※大本山永平寺御専師 監院　小林 昌道 老師**
※曹洞宗審事院 院長　黒田 征利 老師
※曹洞宗岩手県宗務所長 北上市 永昌寺 住職　海野 義清 老師
※岩手県宗務所第六教区長 平泉町 見性寺 住職　渡邊 弘文 老師
※正法寺 檀頭・聖諦庵　藤原 修　様
※奥州市長　小沢 昌記 様
祝電披露
謝辞　正法寺 五十九世 新山主
祝拜　普同三拜 お祝いのお拜、全員合掌三礼
退堂

十時三十分

五十三世 石屋道龍大和尚 五十回忌正當法要

焼香師　大本山總持寺 副貫首 神奈川県 最乗寺 住職 石附周行 老師

殿鐘三会　ご寺院さま入場

七下鐘　導師さまを合掌でお迎えします

鼓一通　お供えの儀式開始の太鼓

上香普同三拝　導師さまが香を捧げた後、全員で合掌三礼します

献湯食菓茶三拝　導師さまが甘い蜜湯・お食事・お菓子・お茶をお供えして三拝

中揖三拝　お供え物の加減をお伺いする導師さまの三拝

法鼓三打　お供えの儀式修了の太鼓

拈香法語　導師さまが香を捧げ、五十三世さまを偲ぶ言葉を述べます

読　経　参宝・行道二匝　ご寺院様方の読経行道

回向　維那和尚が法要の意義をお唱えします。全員合掌します

普同三拝　法要修了の三拝。導師さまと共に全員で合掌三礼

謝拝　山主による法要のお礼のお拝・山主さまとともに合掌礼

大本山總持寺 副貫首 老師 御挨拶

散堂　導師さまを合掌でお送りします

十時三十分

開山忌 正當法要

御親香 大本山總持寺 貫首 紫雲臺猊下

殿鐘三会　ご寺院さま入場

七下鐘　貫首猊下を合掌でお迎えします

上香三拝　お香を捧げて三拝

献湯食三拝　甘い蜜湯とお食事をお供えして三拝

嘸金菓三拝　淨財とお菓子をお供えして三拝

茶鼓一通　お茶をお供えする合図の太鼓

上香三拝　お香を捧げて三拝

献茶三拝　お茶をお供えして三拝

中揖三拝　お供えの加減をお伺いする三拝

法鼓三打　お供え儀式終了の太鼓

拈香法語　香を捧げ、御開山無底禅師を偲ぶ言葉を述べます

開班　両側のご寺院さま（両班）が横一列に並びます

出班焼香　維那和尚の案内で両班がお焼香します

大衆九拝　ご寺院さまが九拝します。全員で合掌九礼

閉班　両班が元の位置に戻ります

宣疏跪炉　猊下を代行して維那和尚が法要の趣旨をお唱えします

読経　普門品・行道二匝

焼香　読経中、行道終了後全員進前焼香（檀信徒は檀信徒は回し焼香）

回向　維那和尚が法要の意義をお唱えします

普同三拝　法要修了の三拝。導師さまと共に合掌三礼

謝拝　山主による法要のお礼のお拝・山主とともに合掌礼

猊下御垂示　お言葉を賜ります

猊下ご退堂　合掌でお送りします

退堂

十二時三十分

檀信徒総供養

導師　山主 老師

殿鐘三会　ご寺院さま入場

七下鐘　山主さまを合掌でお迎えします

拈香法語　檀信徒各家ご先祖さまのご供養の法語

読経　修證義（しゅしょうぎ） 第五章　読経中回し焼香

回向　維那和尚が法要の趣旨をお唱えします。全員合掌

退堂

引き続き

記念撮影（於・法堂）

大梅拈華山 圓通 正法寺

岩手県奥州市水沢区黒石町字正法寺二二九

SHOBOJI

Oshu, Japan

[制作] 株式会社JAZZRIZE DESIGN 〒023-0045 岩手県奥州市水沢区字大町63 TEL : 0197-22-8878 / E-MAIL : info@jazzrize.com